

## アルメニアにおける日本研究

アストギク・ホワニシャン\*

アルメニア共和国の教育機関において日本研究コースが初めて開かれたのは2009年であるため、同国における日本研究の歴史は決して長くない。しかし、20世紀初頭から日本に関する著書が出版され、また日本の文学作品が、ロシア語などの言語を媒介して翻訳されている。本稿では、アルメニア国立図書館で保管されている日本に関する著書や、アルメニア語に翻訳された文学作品を紹介し、アルメニアにおける日本研究の現状や課題について述べる。

キーワード：アルメニア、日本研究、日本文学、翻訳

### はじめに

アルメニア共和国の高等教育機関において日本語教育が始まったのは1992年である。日本語教育の最初の担い手はエレバン人文大学 (Yerevan Institute of the Humanities) であり、筆者を含む日本研究・日本語教育に携わっている学者・教育者のほとんどはこの大学の卒業生である。2009年にはロシア・アルメニア大学 (Russian-Armenian University) にも日本語講座が開設された。2012年にエレバン人文大学が廃校となったため、現在ではロシア・アルメニア大学はアルメニアで唯一、日本語と日本研究を専攻分野として学べる大学である。

このように、アルメニアの高等教育機関における日本語教育・日本研究の歴史は決して長くないが、20世紀初頭から日本に関する著書がアルメニア語で出

---

\* ロシア・アルメニア大学上級講師

版されており、さらにロシア語などの外国語から日本の文学作品が翻訳されていた。本稿では、20世紀初頭からアルメニア語で出版された日本に関する著書や翻訳文学について紹介した上で、ロシア・アルメニア大学を中心に現在のアルメニア共和国における日本研究について述べる。

## アルメニア語で出版された日本に関する著書

アルメニア国立図書館（National Library of Armenia）に所蔵されている日本に関する最も古い著書は1904年に出版された『日本』という冊子である。アルメニアの児童文学作家ヘンコ・アペルによるもので、日本の地理、気候など基礎情報が記されていることからして、この年に開戦した日露戦争により、日本への関心が高まったことから出版されたと考えられる。同年、ハチク・ハチャトリアンによる同じ表題の別の冊子も出版される。1905年にはヘギネ・メリク＝ハイカジャンの『日本一周旅行記』が出版されるが、これはメリク＝ハイカジャンの日本旅行に関する感想、体験などを綴ったものである。

それ以降アルメニア語で出版された日本に関する著書を次のように分類できる。

- 1) 日本の歴史に関するもの。明治維新や戦後復興について述べたものがほとんどである。ただし、独自の研究を行ったものはほとんどなく、主としてロシア語など外国語で書かれた論文・学術書を参考にして執筆されている。
- 2) 日本とアルメニアの交流・関係史。ここで特に注目したいのはアルツヴィ・バフチニャン（アルメニア科学アカデミー研究員）の『アルメニアと日本の歴史的・文化的交流』（2017年）である。バフチニャンはアルメニア語の膨大な資料を使用し、20世紀における日本とアルメニアの交流史について述べている。
- 3) 紀行。上記のメリク＝ハイカジャンの旅行記以外は、詩人のナイリ・ザリアンや哲学者のゲヴォルグ・ブルティアンの日本滞在記がある。ザリアンは日本訪問をきっかけに日本文学に関心を持ちはじめ、のちに俳句や短歌をロシア語から重訳している。

以下、アルメニア国立図書館で保管されている日本に関する著書をあげる。

なお、一部（No. 1、2、4、5、8）はロシア語など外国語から翻訳されていると考えられるが、原文の情報がないため確認することは困難である。

表1 アルメニア語で書かれた日本に関する著書  
 (英語と日本語の訳は、本稿の著者による)

No.	著者・タイトル・出版地・版元・出版年	内容
1	Խնկո Ապեր, Եւպօնիա, Ալէքսանդրապօլ, Տպարան Գէորգ Ս. Սանդեանցի, 1904  Khnko Aper, <i>Japan</i> , Alexandropol: Georg S. Sanoyeants Publishing, 1904 ヘンコ・アペル『日本』、アレクサンドラポール：ゲオルグ・S・サノイアンツ印刷、1904年	日本の基礎情報。
2	Խաչիկ Խաչատրյան, Եւպօնիա, Թիֆլիս, Տպարան Մովսէս Վարդանեանցի, 1904  Khachik Khachatryan, <i>Japan</i> , Tiflis: Movses Vardaneants Press, 1904 Kh. ハチク・ハチャトリアン『日本』、トビリシ：モフセス・ヴァルダネアンツ出版、1904年	日本の地理、気候、歴史に関する基礎情報。
3	Հեղինէ Մելիք-Հայկազեան, Մի պտոյտ ճապոնում, Թիֆլիս, Հերմէս տպարան, 1905  Heghine Melik-Haykazyan, <i>Travelling Around Japan</i> , Tiflis: Hermes Press, 1905 ヘギネ・メリク＝ハイカジャン『日本一周旅行記』、トビリシ：ヘルメス、1905年	著者は日本を旅し、日本の町や人、文化、歴史、社会について述べている。
4	Թ. Թագվորյան, Ճապոնական գյուղացիության դրությունը, Յերեվան, Գյուղհրատ 1934  T. Tagvoryan, <i>The Current Situation of Japanese Peasantry</i> , Yerevan: Gyughhrat, 1934 T. タグヴォリヤン『日本農民の現状』、エレバン：ギュグヘラト、1934年	日本の経済、特に農業や農民のおかれた状況について詳細に述べている。働く女性に関する記述もあり非常に興味深い。
5	Ա. Պողոսյան, Ճապոնիան 19-րդ դարի կեսերին, Երևան, 1940  A. Poghosyan, <i>Japan in the Second Half of the 19th Century</i> , Yerevan (n. p.), 1940 A. ポゴシヤン『19世紀後半の日本』、エレバン（出版社不明）、1940年	主として明治維新や日本の近代化の過程について述べられている。

6	<p>Ար. Մնացականյան, Սովետական բանակի մղած մարտերը ճապոնական զավթիչների դեմ և հայ ռազմիկների մասնակցությունն այդ մարտերին, «Տեղեկագիր Հայկական ՍՍՌ Գիտությունների Ակադեմիայի», 1950, էջ 3-15</p> <p>Ar. Mnatsakanyan, "The Soviet Army's Battles Against Japanese Invaders and Armenian Soldiers' Participation in These Battles," in <i>Bulletin of the Academy of Sciences of the Armenian SSR</i>, 1950, pp. 3-15</p> <p>Ar. ムナツァカニヤン 「日本人侵略者に対するソ連軍の戦闘とその戦闘におけるアルメニア人軍人の参加」、『アルメニア・ソビエト連邦科学アカデミー紀要』1950年、3～15頁</p>	<p>ソ連対日参戦に参加したアルメニア系軍人に関する学術論文。</p>
7	<p>Նաիրի Զարյան, Այնտեղ ծաղկում էր բալենին... Ճապոնական տպավորություններ (Երկերի ժողովածու վեց հատորով, վեցերորդ հատոր), Երևան, Հայպետհրատ, 1964</p> <p>Nairi Zarian, <i>The Country of Cherry Blossoms: Impressions of Japan</i>, Yerevan: Haypethrat, 1964</p> <p>ナイリ・ザリアン『あそこに桜が咲いていた：日本の印象』、エレバン：ハイベトフラト、1964年</p>	<p>詩人のナイリ・ザリアン(1900-1969)の日本訪問・滞在に関する著作。ザリアンは日本の印象・感想以外は日本人作家との交流、日本の戦後文学、文学者の役割などについても述べている。</p>
8	<p>Լիդա Պետրոսյան, Ճապոնիայի տնտեսական զարգացումը (դասախոսություն), Երևան: Երևանի համալսարանի հրատարակչություն, 1976</p> <p>Lida Petrosyan, <i>The Japanese Economic Development (Lectures)</i>, Yerevan: Yerevan State University Press, 1976</p> <p>リダ・ペトロシヤン『日本の経済的發展(講義集)』、エレバン：エレバン大学出版会、1976年</p>	<p>主として明治維新や日本の近代化について述べられている。戦後経済復興に関する記述は少ない。</p>
9	<p>Գեորգ Բրուտյան, Չընթերցված գրքի էջերից, Երևան, «Հայաստան», 1987</p> <p>Gevorg Brutyan, <i>Pages from an Unread Book</i>, Yerevan: Hayastan, 1987</p> <p>ԳեՎոլգ-Բլրտիան 『未読の本』、エレバン：ハヤスタン、1987年</p>	<p>哲学者のゲヴォルグ・ブルティアン(1926-2015)の日本滞在に関する感想・回想、日本人学者との学術交流に関する著作。</p>

10	<p>Յիկոլայ Հովհաննիսյան, Միքայել Ամիրխանյան, Ռուբեն Կարապետյան, Հայաստան-Ճապոնիա: Քաղաքական, տնտեսական, մշակութային և գիտական հարաբերություններ, Երևան, Ջանգակ, 2005</p> <p>Nikolay Hovhannisyanyan, Mikael Amirkhanyan, Ruben Karapetyan, eds., <i>Armenia-Japan: Political, Economic, Cultural, and Scientific Relations</i>, Yerevan: Zangak, 2005</p> <p>ホヴァニツシヤン、アミルハニヤン、カラペチャン（編）『アルメニア・日本：政治・経済・文化・科学的な交流』、エレバン：ザンガク、2005年</p>	<p>アルメニアと日本の外交関係の成立、経済協力、日本政府開発援助、文化交流、アルメニアにおける日本語教育や日本とアルメニアの関係史について述べた著書。</p>
11	<p>Վ. Նավասարդյան, Մեծ Խինգանից մինչև Պորտ-Արթուր: Հայ ռազմիկների մասնակցությունը ճապոնական Կվանտունյան բանակի ջախջախմանը շեղավոր Արևելքում, Երևան, Գասպրինտ, 2006</p> <p>V. Navasardyan, <i>From Greater Khingan to Port Arthur: Armenian Soldiers' Participation in the Defeat of the Kwantung Army in the Far East</i>, Yerevan: Gasprint, 2006</p> <p>Վ. Նավասարդյան 『大興安嶺山脈から旅順口まで：極東における関東軍の敗北とアルメニア人軍人の戦闘参加』、エレバン：ガスプリント、2006年</p>	<p>ソ連対日参戦におけるアルメニア人軍人の参加、またその軍人の経歴などを紹介した著書。</p>
12	<p>Սամվել Ֆարմանյան, Ճապոնական հրաշքը և ճապոնացիները, Երևան, Հայագիտակ, 2012</p> <p>Samvel Farmanyanyan, <i>Japanese Miracle and the Japanese</i>, Yerevan: Hayagitak, 2012</p> <p>サンベル・ファルマニヤン 『日本の経済復興と日本人』、エレバン：ハイギタク、2012年</p>	<p>日本の戦後復興や日本人のアイデンティティーを取り扱う著書。</p>
13	<p>Եվա Հարությունյան, Ճապոնիայի քաղաքականությունը Պարսից ծոցի տարածաշրջանում և ծոցի համագործակցության խորհուրդը (1981–2011), Երևան, ՀՀ ԳԱԱ «Գիտություն» հրատարակչություն, 2016</p> <p>Yeva Harutyunyan, <i>Japan's Policy in the Persian Gulf Region and the Gulf Cooperation Council</i>, Yerevan: Gitutyun, 2016</p> <p>イエヴァ・ハルチュニヤン 『ペルシャ湾地域における日本の政策と湾岸協力会議』、エレバン：アルメニア科学アカデミー出版会、2016年</p>	<p>タイトル通り、ペルシャ湾地域における日本の外交や政策を扱っている著書。</p>

14	<p>Արծվի Բախչինյան, Հայ-ճապոնական պատմական և մշակութային առնչությունները, Երևան, ՀՀ ԳԱԱ Պատմության ինստիտուտ, 2017</p> <p>Artsvi Bakhchinyan, <i>Armenian-Japanese Historical and Cultural Connections</i>, Yerevan: Institute of History, National Academy of Sciences of RA, 2017</p> <p>アルツヴィ・バフチニャン 『アルメニアと日本の歴史的・文化的交流』、エレバン：アルメニア科学アカデミー出版会、2017年</p>	<p>20世紀前半、横浜でアルメニア駐日領事に任命されたダイアナ・アプカー。日本における活動を始め、日本とアルメニアの歴史的・文化的関係について述べている。アルメニア語の一次資料が豊富に使われており、ドキュメントとして貴重である。</p>
15	<p>Գևորգ Բիլիմջյան, Հնդկաստանի, Չինաստանի և Ճապոնիայի միջնադարի ու նոր ժամանակների պատմություն (դասախոսություններ), Երևան, Մեկնարկ 2018</p> <p>Gevorg Kilimjyan, <i>Pre-modern and Modern History of India, China, and Japan (lectures)</i>, Yerevan: Meknark, 2018</p> <p>ゲヴォルグ・キリムジャン 『インド、中国と日本の近世・近代史（講義集）』、エレバン：メクナルク、2018年</p>	<p>江戸時代の政治と社会、明治維新、日清戦争、日露戦争や第一次世界大戦下の日本についての著作。主としてロシア語の資料が使われており、独自の研究は行われていない。</p>

## 日本文学の翻訳

20世紀から、アルメニアでは日本文学への関心がかなり高かったと言える。特に芥川龍之介、川端康成、安部公房の作品が広く読まれており、俳句や短歌の愛読者も多かった。しかし、ソビエト時代のアルメニアでは日本語教育が実施されておらず、専門家がいなかったため、日本の文学作品は主としてロシア語から重訳されていた。

現在も日本文学は広く読まれており、特に村上春樹の作品が高い人気を誇っている。近年は、原文からの翻訳の試みもされ、2020年には、村上春樹の『ノルウェイの森』と村田沙耶香の『コンビニ人間』が出版された。

以下、アルメニア語に翻訳された文学作品をあげる。

表2 アルメニア語に翻訳された日本の民話や文学作品

(No. 24、28～30以外はロシア語等外国語からの重訳である。日本語タイトルは、原題でない場合は本稿の筆者の訳による)

No.	作品名・翻訳出版年	翻訳者
1	Փոքրիկ ձկնորսը: Ճապոնական հեքիաթ, Թիֆլիս, Վ. Աղանեսանցի տպարան, 1910 『浦島太郎：日本の民話』	Հովհաննես Թումանյան ホヴァネス・トゥマニャン
2	Եսպոնական հեքիաթներ, Թիֆլիզ, Տպարան «Հերմես» 1910 『日本の民話』	Գրիգոր Շահբուդաղեան グリゴル・シャープダギャン
3	Թերակոյա գիղական ուսումնարան. Ճապոնական դրամա մեկ արարիաժով, Թիֆլիս, «Հերմես», 1912 『寺子屋：菅原伝授手習鑑』	Աստղիկ Սմբատեան アストギク・スムバティアン
4	Վ. Տոկունագա, Անարև Թաղամասը, Երևան, Պետհրատ, 1937 徳永直『太陽のない街』	Գուրգեն Քելլերյան グルゲン・ケレリャン
5	Ճապոնական հեքիաթներ, Երևան, Հայպետհրատ, 1959 『日本の民話』	Սերգեյ Ումառյան セルゲイ・ウマリャン
6	Տերու Տակակուրա, Խակոնեի ջրերը, Երևան, Հայպետհրատ, 1960 高倉輝『箱根用水の話』	Հարություն Թուրշյան ハルチューン・トゥルシヤン
7	Ֆումիկո Խայասի, Վեց պատմվածք, Երևան, Հայպետհրատ 1963 林芙美子『六つの物語』（「夜猿」、「ボルネオ・ダイヤ」、「軍歌」、「河沙魚」、「晚菊」、「牛肉」を収録）	Ռաֆայել Արամյան ラファエル・アラミヤン
8	Ակուտագավա Բյունոսկե, Թավրտում, Երևան, Հայպետհրատ, 1964 芥川龍之介『藪の中』	Նորայր Աղայան ノライル・アダリヤン
9	Հոքուներ և Թանկաներ, Երևան, Հայաստան, 1965 『俳句と短歌』	Նաիրի Ջարյան ナイリ・ザリヤン
10	Ճապոնական ծաղկեփունջ. Բանաստեղծություններ, Երևան, Հայաստան, 1966 『日本の和歌集』	Նաիրի Ջարյան ナイリ・ザリヤン
11	Էնդո Սյուսակու, Տով և Թույն, Երևան, Հայաստան, 1967 遠藤周作『海と毒薬』	Վլադիմիր Դանիելյան ウラジーミル・ダニエリヤン
12	Սեյտյո Մացումոտո, Ստորջրյա հոսանք, Երևան, Հայաստան, 1968 松本清張『深層海流』	Շողիկ Սաֆյան Շոօգիկ・サフィアン

13	Աբե Կոբո, Չորրորդ սացադաշտային ժամանակաշրջանը, Երևան, Հայաստան, 1969 安部公房『第四間氷期』	Հ. Մարգարյան H. マルガリヤン
14	Էնդո Սյուսակու, Ամուսնական կյանք, Երևան, Հայաստան, 1972 遠藤周作『結婚』	Ելենա Դավթյան エレナ・ダヴティアン
15	Սեիտե Մացուճոտո, Կետեր և զծեր, Երևան, Հայաստան, 1973 松本清張『点と線』	Մարջիկ Սաֆարյան マルジク・サファリヤン
16	Էյսուկե Նակաձոնո, Արձիճը բոցերի մեջ, Երևան, Սովետական գրող, 1976 中蘭英助『炎の中の鉛』	Մարջիկ Սաֆարյան マルジク・サファリヤン
17	Յատունարի Կավաբատա, Հազարաթև կողունը = Ձյունոտ երկիրը = Ճապոնիայի գեղեցկությամբ ծնված, Երևան, Սովետական գրող, 1978 川端康成『千羽鶴・雪国・美しい日本の私』（表題の3作を収録）	Մանե Ջարեյան マネ・サレヤン
18	Յատունարի Կավաբատա, Լեռան հռաչանքը, Երևան, Սովետական գրող, 1981 川端康成『山の音』	Անժելա Ստեփանյան アンジェラ・ステパニヤン
19	Աբե Կոբո, Երեք վեպ. Ավազուտների կինը, Ուրիշի դեմքը, Այրված քարտեզը, Երևան, Սովետական գրող, 1985 安部公房『三つの小説：砂の女・他人の顔・燃えつきた地図』（表題の3作を収録）	Կարեն Սիմոնյան カレン・シモニヤン
20	Ճապոնական պոեզիա, Երևան, Նաիրի, 1993 『和歌』	Այդին Մորիկյան アイディン・モリキヤン
21	Կենձաբուրո Օե, Պատմվածքներ, Երևան, Նոր Դար, 1998 大江健三郎『短編小説』	Գուրգեն Խանջյան グルゲン・ハンジヤン
22	Էրոզավա Ռամպո, Ճաքած նուռը: Դետեկտիվ պատմվածքներ, Երևան, Միվա-պրես, 2000 江戸川乱歩『石榴』	Վ. Ստեփանյան V. ステパニヤン
23	Ծաղկած բալենի: Հորուներ և թանկաներ, Երևան, Իրավունք, 2008 『俳句と短歌』	Նաիրի Ջարյան, Այդին Մորիկյան ナイリ・ザリヤン、アイディン・モリキヤン
24	Ռյունոսկե Ակուտագավա, Թավուտում, Երևան, Անտարես, 2009 芥川龍之介『藪の中』	Ալիսա Տոնականյան アリサ・トナカニヤン

25	Իսիկավա Թաքուրթուր, Սորուն ավագ: Թանկաներ, Երևան, Իրավունք, 2009 石川啄木『一握の砂』	Անահիտ Խաչատրյան アナヒト・ハチャトゥリアン
26	Սեյտյո Մացունոտո, Երկիր անապատ, Երևան, Էդիթ Պրինտ, 2010 松本清張『砂漠の塩』	Արտաշես Մարտիրոսյան アルタシエス・マルティロシヤン
27	Տումիճորի Նակամուրա, Գրպանահատը, Երևան, Գիտանք, 2017 中村文則『掏摸』	Ալեքսանդր Աղաբեկյան アレクサンダー・アガベキヤン
28	Տումիկո Հայաշի, Տոկիո, Երևան, «Մեկ պատմվածք» մատենաշար, 2019 林美美子『下町』	Աստղիկ Հովհաննիսյան アストギク・ホワニシヤン
29	Հարուկի Մուրակամի, Նորվեգական անտառ, Երևան, Անտարես, 2020 村上春樹『ノルウェイの森』	Լիլիթ Խանսուլյան リリット・ハンスリヤン
30	Սայակա Մուրատա, Կոնբինիի մարդը, Երևան, Անտարես 2020 村田沙耶香『コンビニ人間』	Աստղիկ Հովհաննիսյան アストギク・ホワニシヤン

## ロシア・アルメニア大学における日本研究

ロシア・アルメニア大学はアルメニアの首都エレバンにあり、1997年に設立された比較的新しい大学である。研究や教育、さらに国際交流に力を入れているため、現在ではアルメニアの大学ランキングで2位の位置にある。この大学の特徴は、アルメニアとロシア両国から予算がついており（いわゆる国家間の大学である）、両言語で教育を実施しているところにある。

先述のように、本大学で日本語教育や日本研究が開始したのは2009年であり、現在では人文学部世界史・地域研究科の学部や大学院において日本研究の専門家による指導・育成が行われている。大学には日本語の教員（専任や非常勤）が5名、筆者を含めた日本研究者が2名勤めている。筆者は日本の優生学史、医療の社会史を中心に研究を進めている。もう1名の日本研究者ルザン・ホジキヤン（PhD・東北大学）は以前民俗学を研究していたが、現在は日本語教育を中心に研究を行っている。その他、主専攻は日本研究ではないが、日本研究科目を担当している教員が4名いる。日本研究を専攻している学生は2019年度の時点で25名おり、日本語の文法・読解・聴解・作文の授業以外に日本史、

日本文化、日本文学、日本社会、日本政治という科目を履修し、日本をテーマにした卒業論文の執筆を義務づけられている。

本大学は筑波大学、京都大学、神戸大学、山形大学と協定、部局間協定あるいは合意覚書を結んでおり、日本の大学との交流に積極的に取り組んでいる。2017年から2019年までは、ロシア・アルメニア大学にて神戸大学、一橋大学、筑波大学、早稲田大学の学生との交流会・意見交換会が行われた。

ロシア・アルメニア大学は2013年に初めて日本研究大会を開催し（「アルメニア、ロシア、日本の文化的対話」2013年9月）、その後2016年、2017年、2019年に「Ex Oriente Lux」という国際日本研究大会を開催した。特に2017年には参加者数が多く（報告者25名）、報告の分野も歴史学、政治学、文学、映画史など多様であった。研究大会の成果はロシア・アルメニア大学出版会から報告書 Ex Oriente Lux: Изменение мировоззренческой парадигмы от европоцентризма к универсализму (Ex Oriente Lux: The Change of the Worldview Paradigm from Eurocentrism to Universalism) のシリーズとして出版されている。

さらに、本大学は草の根文化無償資金協力の枠組みで2018年3月より「日本語・日本文化センター」を開設し、日本文化や日本研究の普及に尽力している。

## アルメニアの日本研究の展望と課題

現在アルメニアではロシア・アルメニア大学を中心に日本研究専門家の育成が行われている。日本研究に携わっている数少ない研究者が教材、専門書の執筆に取り組んでいるため、近い将来アルメニア語による日本に関する学術書の出版が期待されている。

近年では国際交流基金などの協力もあり、日本研究への関心が高まりつつあるが、課題も多く残っている。たとえば、日本研究科目を担当できる、あるいは学生の卒業論文の指導ができる専門家は非常に少ない。また、日本に関する専門書・学術書が不足しており、予算の関係上海外の日本研究雑誌へのアクセスもほとんどできない。さらに、日本研究プログラムの卒業生に研究者志望の者が比較的少なく、人材の確保も課題である。このような現状が、日本研究の発展を大いに妨げているといえよう。

## Japanese Studies in Armenia

Astghik HOVHANNISYAN\*

The first Japanese studies course in Armenia was only formally established in 2009. However, since the beginning of the twentieth century, a number of books on Japan have been published in the Armenian language. Furthermore, dozens of Japanese literary works have been translated, mainly from Russian into Armenian. The aim of this article is to introduce books about Japan and translations of Japanese literature that can be found in the National Library of Armenia, and to examine the current situation and issues regarding Japanese studies in Armenia.

**Keywords:** Armenia, Japanese studies, Japanese literature, translation

---

\* Senior Lecturer, Russian-Armenian University